

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法Ⅱ (4単位)		3. 科目番号	EDHE2348
2. 授業担当教員	河村 明和			
4. 授業形態	<p>◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など</p> <p><例1> 導入：講義から自らの課題の把握→展開(演習)：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議と講義のまとめ</p> <p><例2>演習(保健科指導法Ⅰで学習した指導法を生かした指導案の作成と模擬授業)</p> <p>導入：講義(健康教育の指導の在り方)→展開(演習)：保健学習の指導案の作成→実際の学校の授業の参観→中学校3年の『病気の予防』の指導内容から課題を把握→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：授業実践、授業の評価とまとめ</p>		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保健科指導法Ⅰを履修していることが望ましい			
7. 講義概要	<p>(1) 保健学習に関する主要な概念を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描き、保健科教諭としての専門性を生かした授業力を高める。</p> <p>(2) 保健科指導法Ⅰで学んだ内容を基礎として、保健科教育内容の構成や系統性、学習指導要領の内容の示し方、教材づくりなどについて学習する。</p> <p>(3) 保健科指導法Ⅰで学んだ専門的知識や実践力を踏まえ、教育実習に必要な授業力を身につける保健管理と保健教育の違いはもとより、保健学習と保健指導の違いに応じた保健教育を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>(1) 生徒にとって楽しく分かる保健授業を目指した「教育内容、教材、指導方法」などの基礎と応用について、実践的・具体的に身に付けることができる。</p> <p>(2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」の保健分野・保健科の内容等について理解したうえで、示された学習指導案形式に則った学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。</p> <p>(3) 保健学習と保健指導の違いに応じた授業の展開を理解し説明することができる。</p>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>平素の講義と学習指導要領解説書並びに教科書を理解し、次の点を予習することにより、確かな力を身に付けることができる。</p> <p>(1) 次時の学習内容について、教科書を活用して予習することをアサインメントとする。</p> <p>(2) 健康教育の課題を見付け、その課題に対する対応策を適宜レポートとして提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 数見 隆生著『生きる力をはぐくむ保健の授業とからだの学習』農文協。 文部科学省刊『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房。</p> <p>【参考書】 森 昭三・和唐 正勝編著『新版 保健の授業づくり入門』大修館書店。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房。</p> <p>【参考資料】 ※ プリント教材等は、随時の授業時に配布しそれを使用する。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 期待されている保健科教育への対応に関する使命感を養うことができたか。</p> <p>2 学習指導要領の目標及び内容について理解し説明できるようになったか。</p> <p>3 知識を活用する学習活動を取り入れるなど、指導方法の工夫ができたか。</p> <p>4 与えられた課題について積極的にグループでディスカッションができたか</p> <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、模擬授業、レポート、指導案、基礎的理解テスト等を総合して評価する。]</p> <p>1 授業への積極的参加 30%</p> <p>2 模擬授業・指導案・レポート 50%</p> <p>3 基礎的知識理解テスト 20%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>(1) 学びとは自らの課題を知ることであり、その課題を自分の課題として捉えたところから学習は始まる。</p> <p>(2) 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。やむを得ず欠席する場合は、書面を提出すること。</p> <p>(3) 携帯電話の操作、及び私語は厳禁のこと。</p> <p>(4) レポート、アサインメントについては、指定した日までに必ず提出すること。</p> <p>(5) 予習するとともに、関心を持って健康教育関係の新聞記事や月刊誌に目を通して置く。</p>			
13. オフィスアワー	初回の授業で周知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>① 保健科指導法Ⅰを踏まえた学習が行われることを知る</p> <p>② 理論と実践を重ねる授業ができる</p>	事前学習	『保健科指導法Ⅱ』用の講義ノートを作成し、中学校『健康な生活と病気の予防』の単元における担当分野の候補を決めてくる。	
		事後学習	養護教諭の専門性を生かした保健科指導法とは如何なるものか考えをまとめる。	
第2回	<p>保健の授業をめぐる今日的状況と課題</p> <p>① 教師主導型の授業からの転換を図る必要性が分かる</p> <p>② 意欲的に学ぶ授業の必要性が分かる</p>	事前学習	模擬授業担当の時間の自らの課題を明らかにしておく。	
		事後学習	生徒中心の授業の視点を明らかにした、模擬授業の視点を設定する。	
第3回	<p>21世紀に求められる新たな『健康の概念』について</p> <p>① 健康の捉え方を再度確認できる</p> <p>② 自ら健康を求めて実践できる児童・生徒の育成の仕方が分かる</p>	事前学習	養護教諭の立場から、その課題である『健康』をどのように学習としていこうかをまとめる。	
		事後学習	理解と実践を如何に結びつけるかについて、そ	

			の考えを本時に添ってまとめる。
第4回	わが国の保健教育のあゆみと保健の授業がめざすもの ① これまでの保健教育の歴史をふり返ることができる ② 科学的な保健学習の重要性が理解できる	事前学習	教科書『保健の授業を巡る今日的状況と課題 p.12～』を熟読し、まとめる。
		事後学習	わが国の保健教育の歩みについて、授業をふり返りながらまとめる。
第5回	保健の授業で『生きる力』を育てることについて ① 主体となれる個の健康観について理解できる ② 自らの身にかかる主体的学習の重要性が分かる	事前学習	“保健の授業で『生きる力』『自ら学ぶ力』を育てるということ” pp.32～38まで読んでくる。
		事後学習	保健学習の中心的な動機付けと成ポイントを本時に即して記述する。
第6回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について I ① 保健科指導法の推進の効果が分かる ② 養護教諭の実践の歴史が分かる	事前学習	本時から養護教諭の視点に立った保健科指導法の究明を行う。なぜ体の教師かまとめる。
		事後学習	養護教諭の実践の歴史が誕生したきっかけをまとめる。
第7回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について II ① 児童・生徒の健康への取り組みが理解できる ② 養護教諭の実践の価値が分かる	事前学習	pp.190～199を読み、先人の努力についてまとめる。
		事後学習	養護教諭の実践の価値について、その実績に基づきまとめる。
第8回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について III ① 学校における健康教育の組織的取り組みが分かる ② 組織を生かした実践の方法が分かる	事前学習	pp.200～220を読んで、健康教育活性化の手順を知る。
		事後学習	保健室経営を充実させる方策を、校内研究の立場からまとめる。
第9回	実際の保健学習について（小学校の授業VTRによる） ① 実際の授業例を通して学習の展開の仕方が分かる ② 実際の授業につながる指導案が立てられる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。①
		事後学習	身にかかる視点から動機付けを行った授業であったか確かめる。
第10回	実際の保健学習について（授業に基づく研究協議） ① 実際の授業を基に、よい授業の条件を理解できる ② よい授業のポイントが分かる	事前学習	授業分析の内容を思い出し、中心となる観点を明らかにしておく。
		事後学習	本時を“そうか”“そうだ”“そうしよう”の学習展開でまとめてみる。
第11回	課題学習による授業の進め方について ① 課題学習の方法を理解できる ② 生徒の主体性を生かした指導法の一つを理解できる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。②
		事後学習	春期に行った自分の模擬授業を、学びの主体性という観点から分析する。
第12回	ディベートによる学習について I ① ディベートの仕方が分かり、その準備ができる ② 保健科の指導法の一つが実践できる	事前学習	対立点が明確なディベートの課題をもって、授業に臨めるようにする。
		事後学習	持論の正当性を堅持すると同時に、対論の弱点をおさえ、記録しておく。
第13回	ディベートによる学習について II ① ディベートを行い、その評価ができる ② ディベートのよさが分かった活用ができる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。③
		事後学習	ディベートの結果について、客観的な評価を行い、次回に備える。
第14回	ライフスキルに基づく学習について ① 保健科の指導法の一つが理解できる ② 実践に即役立つ指導の仕方を知っている	事前学習	セルフエスティームについて調べ授業に臨めるようにする。
		事後学習	ストレスマネジメントについて明確化し、その実践の方法をまとめる。
第15回	養護教諭による授業の参観と研究協議会の実際 ① 実際の授業を見学し、授業の雰囲気をおさえる ② 主体的に取り組む分かる授業ができる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとなればそれはどこかを明確にしていく。①
		事後学習	VTRによる授業実践から、授業分析を行い自分ならどうしたかを記述する。
第16回	模擬授業に向けた教材研究1 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と教科書を基にしながら ① 学習指導要領の趣旨を理解している ② 学習指導案の骨子を理解した指導案を作成できる	事前学習	保健科の4単元を概観し、主としたねらいを明確におさえる。
		事後学習	特に、“健康と環境”の単元が中学の独自性である理由を明確にする。
第17回	模擬授業に向けた教材研究2 年間指導計画における位置づけと授業時数について ① 3年間の保健学習の単元が理解できている ② 年間指導計画の立て方が分かる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとなればそれはどこかを明確にしていく。②
		事後学習	ワークシートを、解説書を基にして完成させ、より理解を図る。
第18回	模擬授業に向けた教材研究3 生徒実態把握のためのアンケート項目の作成 ① 生徒の思いや願いを考慮した学習指導案の必要性が分かる ② 実態に即した指導案が立てられる	事前学習	自らの模擬授業にかかわる実態調査項目を作成しておく。
		事後学習	実態を分析し、模擬授業の進め方を生徒に沿った学習とする。
第19回	模擬授業に向けた教材研究4 指導目標の設定と評価規準の設定 ① 指導の目標とその評価が作成できる ② 指導と評価の一体化が図れる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとなればそれはどこかを明確にしていく。③
		事後学習	保健科における授業評価の視点を明らかにし、自らの指導案を見直す。
第20回	模擬授業に向けた教材研究5 指導方針の決定と指導計画と評価計画の作成 ① 学習指導とその評価計画が立てられる ② 計画に基づいた指導と評価ができる	事前学習	モデル案を参考にしつつ、単元計画の流れの充実を図る。
		事後学習	指導と評価が一体のものである理由をまとめ、さらなる模擬授業の充実を図る。
第21回	模擬授業に向けた教材研究6 本時の目標と展開の決定 ① 本時の筋を通じた展開が計画できる ② 授業の目標に応じた展開が設計できるようになる	事前学習	模擬授業の指導案を作成する。重点とする課題への対応策を明確にして作成する。①
		事後学習	目標に準拠した評価ができるように、具体的評価規準を作成しておく。

第22回	模擬授業に向けた教材研究7 板書計画の作成と授業資料の準備 ① 学習の流れが一目で分かる板書ができる ② 板書計画の作成の仕方が分かる	事前学習	板書計画の意義を明確にし、自分の模擬授業に備える。
		事後学習	学習した板書の仕方をもとに、自分の模擬授業の板書計画を作成する。
第23回	模擬授業に向けた教材研究8 前時に続き授業資料の準備とテスト問題の作成 ① 授業の展開を支える資料の作成ができる ② 学習を支える資料が準備できるようになる	事前学習	模擬授業の指導案を作成する。重点とする課題への対応策を明確にして作成する。②
		事後学習	学習内容にそったテスト問題を作成できたか、本時を再度見直す。
第24回	保健指導の授業の参観（保健学習との違いを理解する） ① 保健指導の役割が分かる ② 保健学習との違いを意識した授業ができる	事前学習	保健指導と保健学習の違いを明確にして授業に臨めるようにする。
		事後学習	特別活動の学級活動にある共通事項（2）を確認して、授業のまとめをする。
第25回	模擬授業の実践と授業研究会Ⅰ（「基本的な生活習慣 生活習慣病、睡眠、食事」などから）、PowerPointなど視聴覚機器の有効活用 ① 20分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業分析の方法を春期の経験を踏まえて思い出し、授業者によって明確にして臨む。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。①
第26回	模擬授業の実践と授業研究会Ⅱ（「喫煙、飲酒、薬物乱用」などから）、PowerPointなど視聴覚機器の有効活用 ① 20分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業後の自己評価を聞きながら、指摘すべき点を明確にした助言を行えるようにする。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。②
第27回	模擬授業の実践と授業研究会Ⅲ（「心身の機能、心身の健康」などから）、PowerPointなど視聴覚機器の有効活用 ① 20分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業分析の方法を春期の経験を踏まえて思い出し、授業者によって明確にして臨む。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。③
第28回	授業の準備 ティームティーチングの役割分担と資料作り、PowerPointなど視聴覚機器の有効活用 ① 授業の展開を理解でき、自分の役割を身に付ける授業の実践に役立つ ② 授業の諸準備の方法とその内容が分かり、教育実習には即役立つ。	事前学習	学習指導案に沿って6年生児童に分かる授業を行うための文字カードや模型を作成し、板書計画などを確認しておく。
		事後学習	グループごとに準備内容を確認し、実際の授業をするにあたって、必要内容を復唱し合う。
第29回	授業を行う。2組に分かれ、保健科指導法Ⅱで学んだ力を生かし、6年生児童を対象に単元『病気の予防』で授業を行う。 ① 生活習慣病の予防法が『わかり』実践できる心を育てる ② どこまで指導力が伸びたか把握することができる	事前学習	台詞でつくった指導案を授業イメージに即しながら自分一人の模擬授業を行う。
		事後学習	本時の学習を通して、養護教諭として、チームティーチング（特にT2あるいはT2）の立場での授業評価を行う。
第30回	授業評価を行い、児童の実態に即し、しかも、わかり実践できる心を育てられたか討議し合い、3年生以降の自分の努力目標をつくる。 ① 自分の課題を明確にできる。 ② 教育実習など実際の授業につながり、生かせる。保健科指導法Ⅱのまとめとして、確認テストを行い、レポートや今後の実践に知識を関連させる。	事前学習	授業後の自己評価を聞きながら、指摘すべき点を明確にした助言を行えるようにする。
		事後学習	保健科指導法ⅠとⅡを学習して生まれた、模擬授業の指導案を見直し、保健科指導法Ⅱで得た知識を踏まえ、教育実習など実践を想定しレポートを作成する。